

# 伝達力を上げる表現条件

文章表現で、以下項目を守ると、文章が引き締まり読みやすくなる。

自らも内容を検討しやすくなる。

1 1センテンスは40字以内で書くようにしよう。

占い文は80字以上で書けという。意味が曖昧になり、幾つかの解釈の仕方が出来るからである。新聞記事などは1センテンスは40字以内で表現されている。

2 コト、モノは使わないようにしよう。

コト、モノはすべての体言と置き換えられる。意味が曖昧な時に使われる場合が多い。コト、モノを使わないように表現を試みると、コト、モノを使った時よりも意味が鮮明になる。

3 「である」「です」と文末は統一して表現しよう。

1つの文章のなかでは、「である調」「ですます調」のどちらかに文末を統一しよう。文章表現の原則である。混在するとマが抜けたようになる。

4 「私は...思う」「考える」「感じる」などを使わないで断定して言い切るようにしよう。

「私は・・・と思う」と表現するのではなく、「何々である」と断定するようにしよう。推定として「思う」を使わねばならない時以外は使わないようにする。人称代名詞を使わねばならない時は少ない。「私が書いている」のであるから、特に「私は」と入れる必要はない。

5 これ、あれ、などはできるだけ少なくしよう。

指示語は、指し示す語句が指示語の前に出ている。その語句が分かり難ければ意味を理解するのに時間がかかる。同じ語句の重複が多くなり過ぎなければ、指示語を使わない方が理解を早くする。読みやすくなる。

6 副詞は意味を曖昧にする。なるべく使わないようにしよう。

「いよいよ」「まさに」「やがて」などの語。状態(ひろびろ)、程度(いささか)、陳述(あたかも)の副詞がある。程度を示す。曖昧さがある。論文などでは使わない方がよい。

7 接続詞を無駄に使わないようにしよう。

単語、文節、文をつなぐ働きをする単語である。使わなくても良い場合が多い。接続助詞、句点など済む場合が多い。

# 正確に伝えるためのルール

1 論旨展開は、なるべく肯定しながら進めるようにしましょう。

否定から書き始める方が書きやすい。否定を多くすると文章展開がしやすい。しかし、読み手にも否定的な印象を与えやすい。すべて肯定的に表すと文章が弛緩しやすくなる。適度に否定形を入れながら書き進める。

2 論文の場合は、体言止、倒置法の技法は使わず、言い切るようにしましょう。

レトリックの数は40弱ほどある。体言止、比喩も1つである。書き慣れるまでは、レトリックを使わずに、言い切る形で表すようにしましょう。

3 引用文はその出典を明らかにする。コピー & ペーストを使うな。

引用するとき、出典と作者を明らかにするのはルールである。引用は、引用の必然の時のみ使うようにしましょう。

4 出来る限り漢字を使え。

一文章での漢字対カナの比率は 1:1.35 ~ 1:1.75 の範囲である。次第にカナの比率が多くなっているが、できるだけ漢字を使うようにしましょう。

5 カタカナ語は、多くの人にとって意味がはっきりとしている単語のみを使え。

外来語をカタカナで表す時、一般に意味が浸透してから使うようにしましょう。語釈が様々であるときは、解説を付け加えておく。

6 むやみに単語を短縮して使うな。

単語の短縮は、他の単語と重なる時があるので注意が必要である。とくに英字での短縮は語釈を入れておく。

7 原稿用紙の書き方に従おう。但し、読みやすさが原則で、出版物の習慣を見習おう。

原稿用紙の書き方も時代に応じて変化している。新聞、雑誌など表現方法を見習うようにしましょう。ネット上の表現方法は当てにならない。

8 句読点は小まめにつけよ。句点「。」は忘れるな。

とくに句点は書き忘れるな。文の終わりが分からないとき、文意が変化する時がある。